

高校生のインターネット利用状況調査¹

新上 和正, 下川 信祐, 井桁 和浩

4 S - 1

Questionnaire Survey of Internets for High School Students

Shinjo K., Shimogawa S., Igeta K.

ATR Adaptive Communications Research Laboratories

将来的な女性利用者と想定される若年層女性に着目し、通信ネットワーク、特にインターネットがどのように受け止められ影響を与えていくのかの調査結果を報告する。

81. 序論

インターネットに関する事柄は、電子商取引(EC)やGameなど毎日の新聞に必ず載っており、また関連する政府刊行物¹⁾や様々な財団法人や研究所の刊行物²⁾⁻³⁾が急激に増大している。またインターネットなどで調べれば非常に沢山の資料や関係した本を手にすることが出来る。⁶⁾⁻⁸⁾ 同様にインターネットのアンケート調査⁵⁾⁻¹¹⁾も行なわれており、色々な職種と年令と年収と男女別にインターネット普及率&利用状況&利用内容(ファッショニ、スポーツ、タレント、"アダルト"に関する事柄、音楽、など)の調査結果を知ることができる。コンピュータ利用やインターネット利用について数多くのアンケート調査が既に行なわれているのが私達の印象である。

この報告書では、特に人がインターネットで代表される新しい通信サービスとどう関るかを調べる。家庭へのインターネットの普及が急速に進み、日本におけるその利用者数は約1000万人と言われている。このうち、家庭からの日常的利用が主である女性利用者の比率は年々上昇傾向にある。そこで将来的な女性利用者と想定される若年層女性に着目し、主に高校生女子(畿内の2校の女子高校、畿内の高専と東海地方の高専、東京の1校の大学の約602名)を対象としたインターネットなどのコミュニケーションツールのアンケート調査を行なうことにより、通信ネットワーク、特にインターネットが若年層の女性にどのように受け止められ影響を与えていたのかについて調査検討を行なった。

62 アンケート調査項目と特徴

32. フォロー：「調査項目ご用意」
私達のアンケート調査は、全部で 11 の質問(その内幾つかは付属的な質問がある)と(PHS、携帯電話、インターネットなど)コミュニケーションツールについての自由な感想 / 意見を書く欄からなる。質問の内容は大まかに分けて([1]パソコン利用について,[2]インターネット利用について,[3]利用者自身の日常生活や(携帯,PHS,プリクラ,ポケベル,たまごっち,放課後クラブ,Emailなどのツール利用状況を尋ねる)三つの項目からなる。他のアンケート調査と比べ私達のアンケート調査の特徴は。

- (1) 主な対象が女子校生であること,
 - (2) 質問項目に自由記述に近いものをより多く取り入れたこと,
 - (3) 質問項目にインターネット以外のコミュニケーションツールの項目を入れたこと,
 - (4) 余暇の過ごし方などの生活項目を入れたこと,
 - (5)(データ分析で)単に集計せず検討に相当な時間を割いたことなどである.

付問 6-2) 使わなくなつた理由 (女子)

	(人)				
	無回答				
	その他の お年がかかる 他ののが面倒				
アラカルト などとしない 理由	24	22	1	24	2
オケベル	14	21	3	15	7
P.H.S.	4	17	3	25	8
高齢者施設	0	13	0	14	8
なまこら 経営移行実験	131	82	46	4	34
アマゾン	9	5	2	1	2
その他	17	12	1	1	1

図版6-33 働ねたくない理由（男子）

有病者-2(使わなくなった理由(男子))							(人)
	おおむね つかかる 時間が長い と感じ る	おおむね つかかる 時間が短 い	おおむね つかかる 時間が短 い	おおむね つかかる 時間が短 い	おおむね つかかる 時間が短 い	おおむね つかかる 時間が短 い	その他の 理由
ブリクラ	52	73	8	4	16	7	
ゴケベル	6	28	3	11	9	1	
P.H.S.	1	18	1	13	13	1	
西暦記入	1	9	2	17	4	3	
なまこつら	60	36	12	2	7	10	
数値換算式	3	7	0	1	2	1	
	1	1	1	1	1	1	

		ブリクタ ボタベキ	オーバー オーバー	ダブル ダブル	たまご たまご	旗子 旗子
-	クリコ	0.956	0.845	0.760	0.780	0.691
-	ボケベル	0.956	0.833	0.858	0.724	0.807
-	P.H.S	0.845	0.888	0.964	0.434	0.477
-	勝利電話	0.760	0.854	0.954	0.355	0.397
-	なまごっら	0.780	0.778	0.434	0.355	0.991
-	旗子旗子実業	0.826	0.807	0.477	0.307	0.991

表1. 左表の各行で横に数字(人数)を並べたモノを規格化されたベクトルと考え²、各ベクトル間の内積を取ったモノが右表である。内積が1に近ければ二つのベクトルは近いことを表す。使わなくなった理由は、(ブリクラ ⇄ ポケベル)、(PHS ⇄ 携帯電話)、(たまごっち ⇄ 放課後俱楽部)は類似している。電子メールは他と距離を保っている。

表2. 表1に類似、使わなくなった理由(男子)。携帯電話とEmailとたまごっちが三角形の頂点を描き、その中にPHS、ボケベル、ブリクラが点在する。女子に比べ男子はより複雑である。

¹質問やコメントなどは electronic address "infor@acr.atr.co.jp" へ。

²例えば、プリクラベクトル = $(24, 22, 1, 24, 2, 1) / \sqrt{24^2 + 22^2 + 1^2 + 24^2 + 2^2 + 1^2}$.

§3. 検討結果

コミュニケーションツール（電子メール、プリントクラブ、携帯電話、PHS、たまごっち、ポケベル、放課後クラブ）を継続して使う場合と使わなくなった場合の各々に固有な構造が見られる。

表1,2は質問6の付問6-2の回答結果である。コミュニケーションツールの感想から：

- (i) たまごっちとプリクラ・タイプ：楽しいやあきた。
- (ii) 携帯・PHSタイプ：お金の問題や必要性の意識がある。「あきた」という人はいない。
- (iii) ポケベルタイプ：(i)(ii)の中間に位置する。

ツールの取捨選択の要因は、(ii)は利用目的が明確である。他方(i)は(ii)(iii)に比べより心的であり、(i)のツールの好みは個人に強く依存する。個人の興味により(i)型にも(ii)型にもなる。(iii)は女子は(i)に近く、男子では(ii)に近く、内積の分析から、ツール間の“近さ”が解読され、ツールがグルーピングすることが出来るようになる。

このような分析方法を使って、また自由記述を併用することによって以下の様な結果と検討を行なうことが出来る。（結果のみ）

[1] 継続利用理由について同様にグルーピング出来る。

- (1) 女子：(携帯 ⇌ PHS ⇌ ポケベル)、(たまごっち)、(Email ⇌ プリクラ ⇌ 放課後)。
- (2) 男子：(ポケベル ⇌ PHS)、(携帯)、(プリクラ ⇌ Email)、(たまごっち ⇌ 放課後)。

使わなくなった理由で見られる構造と同様に、男子に比べ女子の方が特徴・傾向が顕著に出ておりグルーピングしやすい。特にポケベルに性差が現れる。女子は面白いといった電子メールとプリントクラブに似た印象がある。ポケベルについて女子はそれ自体が楽しいと感じ、男子は情報の伝達手段だと考えている。

[2] 使わなくなった人の理由は、どれか1つの拒絶理由があればそれで十分であるように思われる。拒絶が個人の属す事柄であり、且つ、拒絶にはその人個人の抜き差し難い歴史に深く根ざすものがあるのではないかと想像される。また継続して利用している人は、コミュニケーションに対しコミットメントをすることから、ツールへの関わりはより一層複雑になる。

[3] プリクラは（現実の）自分が主人公で、その生活に多様に開いていて息が長く、たまごっちは一つのゲームに過ぎず单面的なので寿命が短い。携帯電話やPHSは交友関係を作るより、維持するもの。また、女子は小さなもの、可愛い、携帯可能なものが好きである。¹²⁾

[4] 未経験者にインターネットが「恐い」や「危険」という印象が現れる。プリクラを「記念」「思い出」の心理的印象。プリクラでは「誰かと一緒に撮る」ことが重要である。PHS・携帯電話は機能がはつきりしているが、たまごっちはコンテンツよりだが、他者の介入しない自分一人が中心である。

[5] 継続理由と使わなくなった理由に見られる構造に、地域差（高校と高専の場所の違い）がない。（他の表から）

[6] 法則： $\Delta A(\text{面白さ}) \times \Delta T(\text{時間}) = 1(\text{定数}) \Rightarrow \text{面白さのインパクトが強ければ強い程、飽きられる速度が早い。}$ （ツールが世の中に広まる条件に類似した関係式が成り立つ）

謝辞

アンケートにご協力頂いた高校の生徒、高専の学生及び大学の学生、先生方にお礼申し上げます。また、アンケート調査検討全般にご協力頂いた白谷氏、集計と分析に御協力頂いた林氏、議論に参加して頂いた倉持氏にお礼申し上げます。

参考文献

- 1) 郵政省編、"通信白書 平成10年版"、(1998)。
- 2) 郵政省郵政研究所、"新しいメディアの利用動向に関する調査研究報告書"、(1997)。
- 3) (財)日本情報処理開発協会編、"情報化白書1998"、(株)コンピュータ・エージ社。
- 4) 日本インターネット協会、"インターネット白書'98"、(1998)。
- 5) (財)全国少年補導員協会、"コンピューターネットワークを利用する少年に関する調査"、(1997)。
- 6) 日経マーケット・アクセス、"インターネット普及率調査1997"。
- 7) サイバースペース・ジャパン(CSJ)、"第6,7回 WWW利用者調査"。
- 8) Yahoo!JAPAN、"第4回ウェブ・ユーザー・アンケート調査"。
- 9) 橋本良明他、"女性のインターネット利用実態"。
- 10) "東京大学社会情報研究所調査研究紀要"11号(1998)。
- 11) 野村総合研究所、"情報通信利用者動向の調査"、(1998)。
- 12) 伊藤淳子、"女子高生のクチコミのつくりかた"、情報メディア 26-6(1996)。